

市長 皆さん、忙しい毎日を送っていることと思いますが、日々の仕事の中で実感していることを聞かせてください。

小原 私は、警察官の仕事というのは、非常にアクティブに動く仕事だろつというイメージを持っていたんです。しかし、実際には、報告書などを作成する業務も多くて、けっこう苦労しています。一日も早く文章を書く作業に慣れて、書類が戻されることがないようにしたいと思っています。



大谷 サッカーの練習があつて、なかなか勉強ができないんですが、分からないところを先輩から教わったり、フォローしていただいています。また、患者様から、なでしこリーグの選手なんだつて、頑張つてと声をかけていただいているので、本当に地域の皆さんに支えられているんだなと実感します。なでしこリーグは、観客席のある競技場しか試合ができないので、狭山で試合をしたことがないので、すが、いつかここで試合をして、プレーで恩返しできたらと思います。

大塚 子ども達が、ロッテの商品を握りしめて「ママ、これ買って」と言っている姿を見ると、喜びや誇りを感じます。その反面、食の安全が問われている時代でもありませんので、子ども達の笑顔を失わないように、気を遣わなければいけないです。これから働く上でも、そういうところに力が向いていくのではないかと思います。

尾崎 言葉の足りなさや知識の足りなさで、自分の伝えたいことがお客様や上司に伝わらない場面がありました。お客様に商品の説明をするときや先輩に報告や相談をするときなど、自分の頭の内容をまとめるから、相手に分かりやすく話をするのが大事だと日々感じていきます。

狭山市の魅力と課題

若者が考える狭山市の将来像

市長 本日は、狭山市で生まれ育つた方も、就職して来られた方もいらつしやいます。狭山市に住んでいて感じることや、将来どんな市になつてもらいたいかなどを聞かせてください。

大谷 4月から水野に住んでいます。入曽の駅前やその周辺がすごく狭くて、車と自転車、歩行者が混雑し、いつも危ないなと感じています。地域の方の協力が必要で、難しい問題だと思えますが、これから高齢化が進んでくるので、もう少し道路が広がつたら、お年寄りにも子どもにも安全・安心な地域になるのではないかと思います。

大塚 私が生まれ育つた栃木県の芳賀町は、郊外に位置していて、工場誘致で大きくなつた町で、狭山市とよく似ています。ですから、狭山に住んでいると、空気感や街の人のようすなど、地元に戻つたよくな安心感があるんです。もちろん、駅がきれいになつたり、バリアフリーになつたりするのは、とてもよいことだと思えますが、ふるさと感や人の温かみという部分を前面に出してまちづくりを進めていくのもいいと考えています。

尾崎 私が住んでいるところは、駅まで徒歩で行くことが困難な距離にあつて、しかも交通の便が悪いんです。公共の交通機関や道路の整備など、もう少し移動しやすい環境をつくつて便利になつたら、お年寄りに限らず、皆さんが外に出やすくなると思います。

小原 今、狭山市駅前の開発が進んでいます。利用しやすいですし、木がきれいに植えられていて、清潔感もあるので、ますます利用者が増えて活気が出てくるのではないかと期待しています。私がパトロールをしていて感じることは、大きな道路は比較的明るいのですが、住宅街の道路などは狭くて、少し暗いと感じています。

市長 「生活」という意味では、人と人の触れ合いや思いやりを軸足を置いたまちづくりが必要だと考えています。また、入曽の駅前は、大きな課題なんです。入間小学校は私が卒業した学校ですが、少子化の影響と駅前整備のために137年の歴史ある学校を閉校しました。駅前を整備して、その効果を周辺に波及させる、狭山市駅の次は、入曽駅だと思っています。

元気な狭山をみんなで作る

若者の人口を増やすために

市長 国勢調査の結果を見ると、狭山市の高齢者の比率は22.6%で県の上位にあり、それと同時に、0歳から15歳の比率が12%となっていて、県内の市の中で下から4番目です。少子高齢化の傾向がはつきり出ているわけです。

これからの狭山市は、どこを魅力とし、アピールしていけばいいのか、子どもを安心して生み育てられるまちにするにはどうしたらいいのかというのが大きな課題です。そこで、皆さんが考える若者人口の増加策を聞かせてください。大塚 美人時計をご存じですか。ホームページをめくって、女性が1分ごとに時間を表示してくれるものなんです。それと同じ発想で、狭山市の女性、もちろん男性でもいいですけど、カレンダーを出してPRしていく。こんな人が狭山で頑張っていますというふうにして、その人たちを目当てに人が集まるようになれば、話題づくりになるかなと考えました。尾崎 狭山市に人が来てもらうためには、駅と周辺の商店街を連携させて一体となって盛り上げていく努力が必要だと思います。

あと、狭山市は大変自然に恵まれているところだと思います。智光山公園に花菖蒲園しょうぶ園がありますけれど、この時期になったらこの花を見に行こうというふうに、自然を利用し、花に特化した場所をつくって観光客を増やします。まず、見てもらうところから始め、狭山はいいところなんだというのを分かってもらえると、人口も増えてくるのではないのでしょうか。

小原 若い夫婦の方が狭山市に住んで、生活するのに何が不便かを考えたときに、ここは坂が比較的多く、小さいお子さんを連れて買い物するのはなかなか大変だなと考えました。駅の商業施設などがありますけれど、便利なスーパーマーケットは、ぼつんぼつんとある感じで、買い物は意外とづらいのではないかとという印象を受けました。買い物物しやすさなどを含めて、市内の交通の便をよくすることが、子育てのしやすさにもつながるのではないかと思えます。

立地的には、都内に出やすい電車が走っていて、通勤にもとてもいいところだと思っています。

大谷 私狭山市に住むにあたって、アパートなどの値段を調べたら、近隣市に比べて少し安いことが分かりました。ですから、西武線沿いの大学生が狭山市に住みたくなるように、今流行しているルームシェアができるアパートがあったりすると、若い人が増えてくるのではと考えました。

スポーツ面では、なでしこジャパンのおかげもあって、今すぐ女子サッカーがブームになっています。観客席やナイター設備のある競技場が整備されれば、狭山市での試合が可能になり、私たちも、サッカーで狭山市を全国にアピールすることが出来ます。若い人が来るきっかけにもなると思いますので、ぜひお願いします。

市長 全国的に少子高齢化が進んでいる時代にあつて、若者人口を増やす、地域を活性化するというのは難しい問題です。子育てに関する政策では、中学3年生までの医療費無料化や子育てプレイルームの整備など、他市に先がけて取り組んできたものもありますが、今検討しなければならぬのは、その前の段階なのです。まずは、狭山市独自の魅力を発信していかなくてはいいですね。

私は、市長就任以来「元気な狭山をみんなで作る」を大きなス



ローガンに掲げ、人と人がつながりを持ち、みんなが助け合って住みよいまちをつくっていきこうという目標を持って、市政運営を進めています。

そのような中、新しく社会人になられた4人の皆さんに意見を聞いて、これからの狭山市の施策の参考にさせていただければと思ってお集まりいただきました。いろいろ参考になったものがありました。しかし、私たちがこれから努力しなければいけない部分も感じました。市民の皆様からも、私の提案「制度やメールなどでご意見を伺う機会を設けていますので、よろしくお願いたします。」

本日はありがとうございました。